

こすもす

2024. 冬号

Vol.9

Contents

- 乳がん患者さんへの意志決定支援
「乳がんに罹患した後の薬物治療をどのように決めるか？」
「高齢者への意思決定の共有 (Shared decision making : SDM) と治療選択」
- インフォメーション

「乳がんに関患した後の薬物治療をどのように決めるか？」

佐久医療センター 乳腺外科部長 小坂 泰二郎 先生



乳がんは女性が罹患する最も頻度の高いがんであり、また発症年齢が40代後半から50代にひとつのピークがあり「乳がんと診断されること」が身体的、社会的に患者さんや支える家族に対して多くの非日常的な選択を迫ることになります。また、患者さんにとって複雑な治療から自分に相応しいものを選択することは、病と向き合うことに加えて多くの負担をかけることとなります。具体的な治療選択肢を提示する過程を50代の比較的若い架空の症例でお示ししたいと思います。ご自身が患者さんになったつもりで読んでみてください。



患者 54歳女性 閉経後（架空の症例）

3週間前に右乳房外側に2cmの腫瘤を自覚してホームドクターを受診、触診により乳がん疑いで医療センター紹介となる。手術は乳房部分切除+センチネルリンパ節生検を行い「浸潤性乳管がん」、「リンパ節転移なし」、「組織学的異形度(HG)グレード3」、「エストロゲン受容体(ER)陽性」、「HER2(ハーツー)陰性」、「Ki67(ケーアイ67)25%」と診断された。

この患者さんに、「再発を予防するための全身治療」としてどのような治療選択肢が提示できるでしょうか？

・意思決定支援ツール

上記の因子を Predict breast (<https://breast.predict.nhs.uk/>) という、意思決定支援ツールを用いると選択できる薬物治療について次のことがわかります。

10年生存率

- 手術のみ……………74%
- ホルモン治療追加……………80%
(6% 予後に対しての上乗せ効果が期待できる)
- 化学療法追加 85%
(更に5%上乗せ効果が期待できる)

さて、皆様はホルモン治療、そして化学療法を選択されるでしょうか？

「より長く生きるため」に両方の治療を選択される場合もあれば、副作用を意識して「今の生活を崩したくない」との希望でホルモン治療のみを選択する場合もあるかと思えます。再発を予防することができるのは手術後の一定期間に行われる薬物治療が重要であるため、患者は短期間で人生に関わる重要な選択をすることになります。また、家族構成、社会的な立場、人生観などから5%という数値の判断基準が変わることが予想されるため、**さまざまな価値観を持った業種がご本人やご家族の治療を選択する過程に関わることが望ましいと考えています。**

また、Predict Breastは海外のビッグデータをもとに導き出されていますが、より個別医療として評価ができる意思決定支援ツールが最近保険適応になりました。

オンコタイプDX：この検査は、がん細胞から取得した遺伝子を分析し、21個の遺伝子（がんに関連する16個と参照用の5個）の活性を測定します。これらの遺伝子の活性から算出されるスコアはがんの再発リスクを定量化し、化学療法の恩恵を受ける可能性（受けなくてもよいと判断できる客観的な理由）があるかどうかを示します。

オンコタイプDX乳がん再発スコア® 報告書



エグザクトサイエンスホームページより引用(架空の症例とは別症例)
*再発スコアが13のため、化学療法の上乗せ効果が1%未満であることが予想された。

これらの意思決定支援ツールを用いて、より患者さんやご家族に予後を改善するための具体的なデータを示すことができ、意思決定の共有 (Shared decision making : SDM) に対して補助となるデータをお伝えすることができるようになりました。

「高齢者への意思決定の共有 (Shared decision making : SDM) と治療選択」

乳がんの「意思決定支援ツール」について、その一部をご紹介しました。それをどのように用いるかが重要です。特にがんは年齢とともに増加するため、高齢者におけるShared Decision Making (SDM : 共有意思決定) と一般的なSDMの違いを知ることは大変重要なことです。例えば、前述した「意思決定支援ツール」は予後（どれだけ長く生きられるか）をゴールに設定したものであり、ゴールの異なる高齢者の場合は意思決定の支援にならない可能性があります。

ここで理解を深めるために、高齢者と一般的なSDMの対比を一覧表に示します。

| 要素 | 高齢者における共有意思決定 | 一般的な共有意思決定 |
|---------------|---|--|
| 情報の共有 | 言葉遣いを簡潔で明瞭にし、視覚的表現を積極的に使用。健康状態や治療選択肢に関連する情報を、高齢者の認知能力に合わせて調整。 | 複数の治療オプションとその利点・リスクについて包括的かつバランスの取れた情報を提供。 |
| コミュニケーション | 耳が不自由な高齢者や認知障害のある患者とのコミュニケーションに特別な配慮を払う。家族や介護者の意見も取り入れる。 | 患者の好み、価値観、意見を積極的に聞き出し、尊重する。 |
| 意思決定のサポート | 認知障害や意思決定能力に影響がある場合、適切な支援者（家族や法定後見人）の関与を促進。 | 患者自身の意思決定を尊重し、自己決定を促進。 |
| 治療の複雑さ | 複数の慢性疾患や薬の相互作用を考慮し、単純化された治療計画を提案することが多い。 | 患者の現在の健康状態や治療に関する希望に基づく個別化された治療計画。 |
| リスクと利益の評価 | 人生の質や長期的な予後よりも、即時的な快適さや機能性の維持を重視する傾向。 | 長期的な治療成果や全体的な健康状態の改善に焦点を当てる。 |
| エンドオブライフケアの考慮 | 生活の質、緩和ケア、遺言など、エンドオブライフに関連する話題を取り入れることが重要。 | 一般的には、この段階に至るまでの治療選択に焦点を当てることが多い。 |

高齢者機能評価(GA)を用いたSDM

また、「最近の高齢者は以前より若くなった」という言葉を皆様は聞いたことがあるかと思います。高齢者においては治療の適応に、より客観的な評価が必要であり米国腫瘍学会のガイドラインでは「化学療法を開始する65歳以上の患者には、日常的には検出されない脆弱性を特定するためにGA（高齢者機能評価）を使用すべき」としています。具体的には最低限、①身体機能、②転倒、③併存症、④うつ、⑤認知機能、⑥栄養の評価を行うことを推奨していますが多忙な臨床現場を考慮すると簡易ツールによる評価が高齢者がん診療ガイドラインでは提唱されています。（参考：ツールのひとつである「G8 Screening tool」は医療支援アプリHOKUTOで提供中です。QRコードよりアプリダウンロード可能）

高齢者の身体的、社会的な背景を我々が理解して、そして相手に伝える言葉を持って初めて「相互理解」のもとで患者さんに適した治療が選択できると感じています。



さいごに「阿弥陀堂だより」での主人公の妻(内科医)の言葉より

「病気がていばねえ、私は自分が病んでみるまで、医者のかせに病気と単なる体の故障の区別がつかなかったのよね。癌で死期が迫っていても病気でない人もいれば、ちょっと長びいた風邪で重い病気になってしまう人もいるのよね。問題は心を病んでいるかどうかなのよ。重篤な疾患にかかっているも心を病んでいない人は病人ではないのよ。そうゆう患者さんっているでしょう。こちらの方が前向きな生き方に励まされてしまうような末期の患者さんが」
(文春文庫 著者 南木佳士先生より引用)

どのような時期の治療だとしても、人生の大事な時間を一緒に走る伴走者として我々を選んでくださったわけで、光栄この上ない役割に対して医療者として、その方の生き方の邪魔をせず、真摯に向き合えるかが日々問われていると感じています。

佐久医療センター/佐久総合病院 乳腺外科 部長 小坂泰二郎

～インフォメーション～

「がん診療セミナー」

医療従事者対象 参加費無料
会場：佐久医療センター1階ホール

■2024年1月18日(木) 18:00~19:30
「AYAがんトップランナーに聞く
AYA世代がん患者支援の今」

講師：聖マリアンナ医科大学病院
生殖医療センター長 鈴木 直 先生

「佐久がん基礎講座」

医療従事者対象 参加費無料
会場：佐久医療センター1階ホール

■2024年 2月21日(水) 19:00~20:00
「がん患者のしびれ」

講師：佐久医療センター
腫瘍内科医師 國枝 献治 先生

「市民公開講座」

参加費無料
会場：佐久医療センター1階ホール

■2024年3月23日(土) 10:00~
「がんと遺伝/ゲノム」

講師：佐久医療センター
腫瘍内科医師 國枝 献治 先生
遺伝診療科医師 中村 由唯 さん
遺伝看護専門看護師 中村 由唯 さん

お問い合わせはこちらまで

【事務局】

佐久総合病院佐久医療センター がん診療センター
電話：0267-62-8181
Eメール：gan-kyo10@sakuhp.or.jp
篠原・高見澤

がんサロン「もくらん」

●1月25日 ミニミニ学習会

「抗がん剤治療中にもできる運動とリラクゼーション」と語り合い

●2月22日 語り合い

開催日時：毎月第4木曜日 13:30~15:00

場 所：佐久医療センター 文化交流室

お問い合わせは「がん相談支援センター」
(直通 0267-88-7184) まで連絡をいただくか、
佐久医療センターのホームページでご確認ください。



就労相談会

～治療と仕事の両立に関する様々な困りごと～

相談無料
要予約

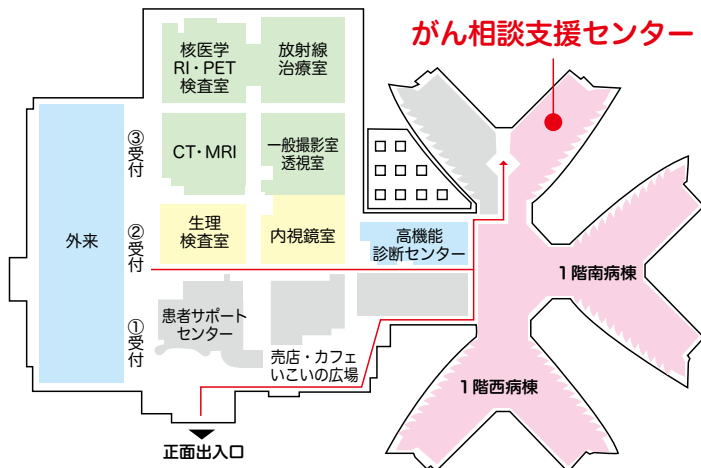
社会保険労務士による
相談会

ハローワーク長野による
就職相談会
オンラインでの相談も
承ります。

治療と仕事の両立
支援相談会

ご相談・お問い合わせはがん相談支援センターまで

佐久医療センター1階平面図



編集後記

やっとコロナ前の日常が戻りつつあります。良い面もあればそうでない面もあり、その一つに「マスクいつ外すか問題」があります。筆者はコロナ前より数年は老いており、マスクを外した際の、その変わり様に、周囲が驚きやしないかと不安に思う日々を過ごしています。巷では「マスクを外すのにまだ抵抗がある」という問題があるようですが、その理由は感染に対する恐怖だけではないような気がしてなりません。



JA長野厚生連 佐久総合病院佐久医療センター

がん相談支援センター

☎0267-88-7184